



私の看護観



私が看護師を目指したのは小4の時です。祖母の入院がきっかけでした。末期の癌で弱っていく祖母や家族に対し親身に関わる看護師が、かっこよく、自然と看護師を目指すようになり、看護学生として様々な看護師・患者と関わり「患者に寄り添える看護師」と漠然ではありますが、自分なりに看護観をもちました。

4月に入職し、回復期リハビリ病棟に配属と聞いたとき、どのような看護師としての役割が求められるのか正直想像できませんでした。実際に働き始めてからも自分のイメージしていた看護業務と違うと感じることもありましたが、病棟でしか経験できない技術も含め、様々な経験ができるように先輩方が声をかけてくださいました。「病棟では様々な疾患を持った患者と深くじっくり関わることができる」、と教えてもらった様に、たくさんの患者と関わっていきこうと思いました。特に印象に残っているのは、左半身麻痺のAさんです。Aさんは右視床下部出血の後遺症により左半身麻痺となりほぼ全介助で膀胱留置カテーテルがある状態でした。Aさんは穏やかな性格ですが、リハビリに対して、最初はあまり意欲的には見えませんでした。特に、膀胱留置カテーテルを外した際に自尿が出ず導尿とトイレ誘導を何度も繰り返し行っていた時は、本人へのストレスと苦痛は大きかったと思います。しかし、何度もリハビリを行ったことにより初めて自尿が出るようになった時、一緒に喜んだことが何よりも印象に残っています。悲観的なことをあまり口にするのがないAさんでしたが、私は常に本人の不安を取り除くために今できることを考え、患者の不安や葛藤を受け止めながら、ただ傾聴する関わりを行いました。退院が近づく頃には、自ら自主的にリハビリを積極的に行い、表情も明るく笑顔も見られるようになりました。「長い間本当に世話になってありがとう」と嬉しい言葉もいただきました。

回復期リハビリ病棟では、様々な慢性疾患を抱えた患者が多く、急性期の段階では治療が中心となる事に対して、回復期は生活の再構築に向かっていきます。そのため、障害が残る場合には生活を再構築することが求められますが、障害を受容する過程において、否認期にはリハビリを拒否したり、混乱期には怒りや悲しみ、抑うつなどが生じたりと患者の心理状態は不安定で変化が大きくなることを知りました。また、患者に障害が残ることは家族にとっても精神的に負担が大きく、不安が強くなることから、家族に対するケアが必要となります。様々な患者と出会い、看護師として患者に与える影響力や責任の重さ、関わり方の難しさを感じました。

急性期に比べ医療行為が少ないものの、急に疾患が悪化し、昨日まで状態に変化がないように見えていた患者さんでも救急搬送することもあります。そういった患者の異常を早期に発見するためにも、日々の観察が重要となり疾患に対する知識や理解がもっと必要であると感じました。

2年目 回復期リハビリ病棟看護師



国試問題

106A46 疾患の原因となる生活習慣の組み合わせで適切なのはどれか。

- 1.低血圧症 飲酒
- 2.心筋梗塞 長時間労働
- 3.悪性中脾腫 喫煙
- 4.1型糖尿病 過食

答え

図106A46の解説を参照してください

奨学金制度のご案内

貸与金額 月額 50,000円

・奨学金を受けた期間と同期間、当法人施設で勤務することにより返済は免除となります。

対象

- ・看護学校入学が決定した方
- ・看護学校在住の方
- ・免許取得後、当法人で働くことを希望される方

◇詳しくは右記担当者まで

申込み・問合せ



岐阜勤労者医療協会

みどり病院

〒501-3113



☎ 058-241-0681 (代表)

✉ midori-nurse@gifu-min.gr.jp

看護学生担当：荒深